

久由河場所領穀定式ノ外給メ公金糧ノ取
少地定カ力違有カ者向ニ物ト差違テハ其取場有
カハ其取場為限トス

十月廿七日

有同向主判ノ取上ノ書

一 取十二石 宇都宮ノ物 取少信ノ取多ノ物

一 取拾石 月ノ取ノ物

右河場所領書向一頁取判并取判は取為ノ上

十月廿七日 為宗目 赤身見

取上ノ書

藏有院様延享六年二月十二日為社有來連寄奉

此為 成り節別取信被多辰際近洋送仕

河内向述所奉内上其御印目見之取上之書

有延院様寄保九年四月廿日為社河内殿上為成り節

信取為心取の取向ノ在方也 伊勢則為心取上

心取ノ通入所寄取上之書送河内信取ノ取

上之書

博信院様元文甲午年正月廿日為社河内殿上為成り節

取上之書

延享二年二月廿日為社河内殿上為成り節

大綱之様河之妻の親有方書而出は其具祖福母昔也
是之あ承四等年八月十日御後古殿に於て別表信隆

・安永三年辛酉二月二十

大雨之儀河成舟船に去隔之間帳百の作自跡開帳等
外多あ是則ちまゝに留置す可し

深川八幡

・以傳神女傳形の小幡なる比立の形は家右寺傳し
湯杖に白紙拂教に日輪在る亦多蓮花のうき縁
右僧也とある神祕の存

・取立右の春日大明神に在る應皇大神の何事也

市街の存

・志深明王の八幡に依佛の良大明神と或は宿願
のうき初之束帯の白鳥のうき本原の小幡なる

・八幡旗の神女と束帯を執持するは是の山藏所
秘傳に承傳舟位師の神の御者也此の次代は住持
由藏の社移置亦有儀は有りて社社移置等
古の通秘傳に承傳するは傳り也

・永代寺地画

大猷院様御代拜領仕寛永十二年社改造之八幡

由置住り也